

平成29年度全国学力・学習状況調査分析結果

① 実施日 平成29年 4月 18日 ②対象児童 第6学年児童 129名

③ 学力分析と課題及び対策
全国平均正答数との比較

教科	内 容	設問数	本 校	全 国
国語A	① 身に付けておかなければ後の学年内容に影響を及ぼす内容	15	12.3ポイント	11.2ポイント
算数A	② 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など	15	13.4ポイント	11.8ポイント
国語B	① 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力	9	6.1ポイント	5.2ポイント
算数B	② 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力 など	11	6.4ポイント	5.1ポイント

上記の表からもわかるように、国語、算数共に全国の平均を上回っています。両教科に対する関心は児童に対するアンケートの結果から見ても高く、関心が高いほど、正答率も高いことが分かります。しかし、さらに細かいデータを分析すると、国語では、「話す・聞く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の正答率が8割に達し、全国平均をかなり上回っているにも関わらず、「書く能力」の正答率が6割程度で、全国平均をわずかに超えているにとどまっています。年々向上している傾向にはあるものの、本校の重点研究で行っている「対話を通じた学び」を手立てとして、「自分の考えをもてる能力」を育て、その考えを「文章表現できること」をめざした全体指導や個に応じた指導をより工夫していくことが課題です。学年ごとの到達目標を意識して、教員もさらに指導方法を研究していきます。算数でも、「数量や図形におけるの技能」、「数量や図形についての知識・技能」に関しては平均正答率が9割近くになるものの、「数学的な考え方」を問う長文の文章問題や解答を言葉や式で記述する問題では、平均正答率が5割弱になってしまいます。図形に関する問題では、さらに正答率が下がっています。全国的な傾向ではあるものの、学習指導要領改訂や大学入試の傾向などからも、文章を読み取る力や考えを表現する力は増々必要となってきます。全教科の学習指導や読書教育、地域などでの児童の学童期における体験をさらに充実させていくことを考えていきます。

④ 生活意識調査から

学力調査と同日に行われたアンケートの結果として、「学校に行くのは 楽しいと思いますか」という問いに「そう思う 54.3%」「どちらかといえば、そう思う 33.3%」とありました。9割近くが楽しいと感じていることを評価すると同時に、そう思えない児童の理由を考え、改善していきます。また、「物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがある」という問いに9割以上が「ある」と答えていますが、「失敗を恐れて挑戦できない」や「自分によいところがあるとは思えない」と考えている児童が2割ほどいることも分かりました。5人に1人は自己肯定感・自信がもてないという現状を改善していく方法を具体的に考え、実践していきたいと思えます。